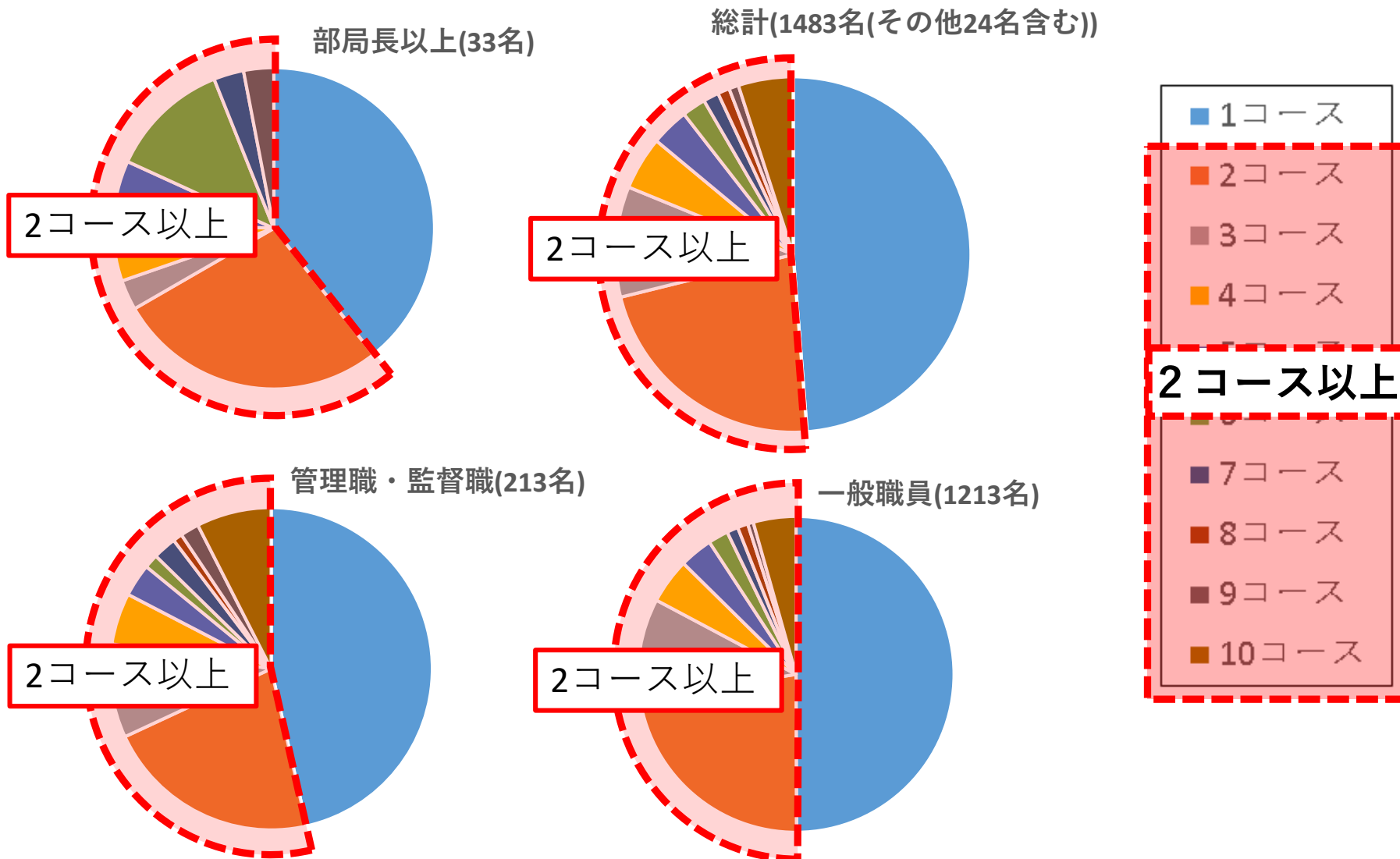


有明の丘応募者・受講者の状況① 応募コース数

- 応募者の約50パーセントが2コース以上を希望している。
- 一般職員では半数が1コースのみ希望している。

応募コース数：R2第一期・第二期、及びR3第一期の応募者データから

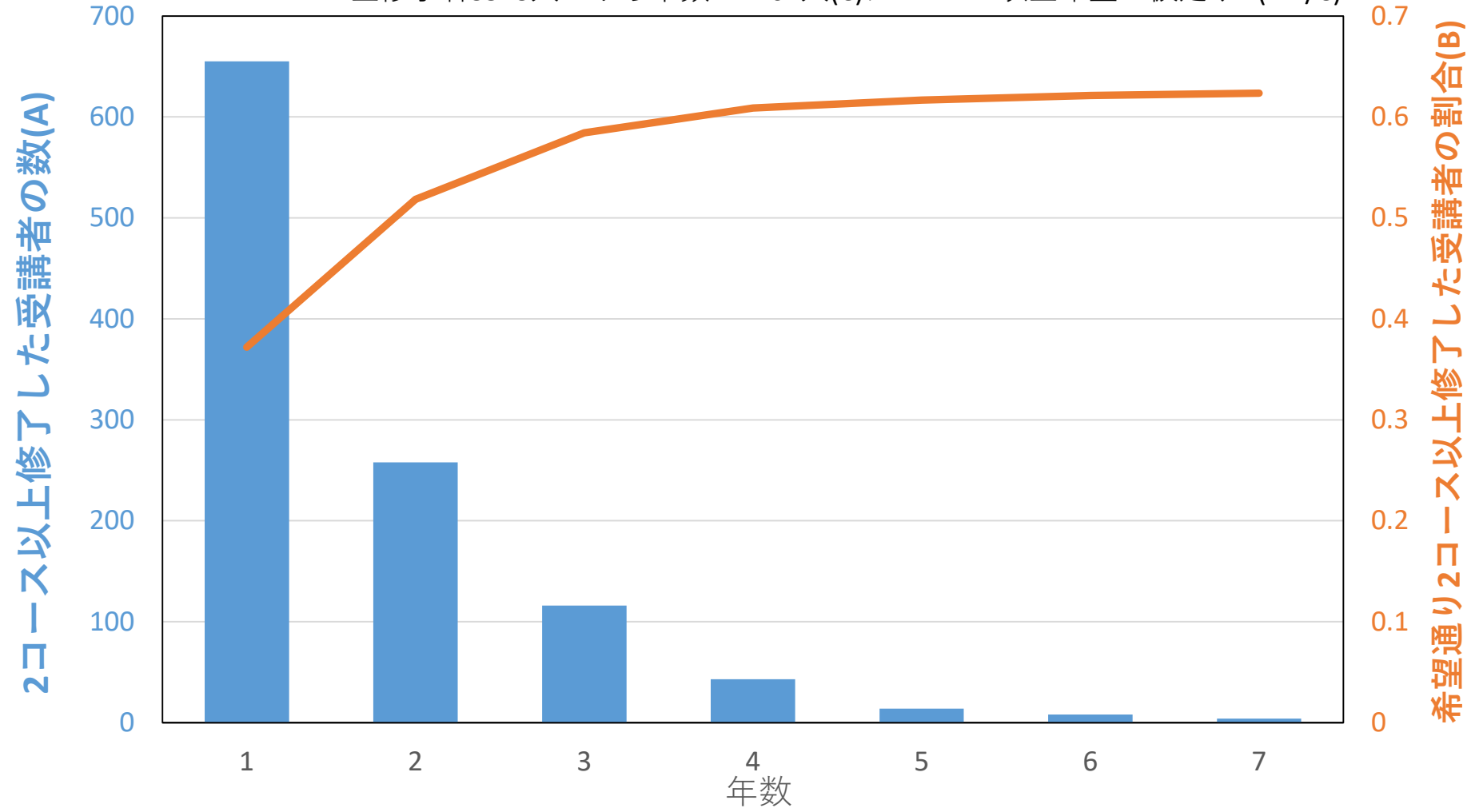


有明の丘応募者・受講者の状況② 修了所要年数

- 年数4年以降は2コース以上修了した受講者数がほとんど増加しない
- 2コース以上修了できたのは2コース以上希望した受講者の60%程度

修了者データ(H26-R2)から作図 応募者の半数以上は2コース以上の受講を希望

全修了者3523人のうち半数の1761人(C)は2コース以上希望と仮定→ $B (= A/C)$



有明の丘応募者・受講者の状況③ 応募者数・応募コース

- 職位によって**応募人数**が桁で変わる(部局長<管理職・監督職<一般職員)。
- 職位によって**希望コース**の傾向が異なる(部局長：赤多、一般職員：青多)。
- すべての職位で**防災基礎**の希望者は多い傾向にある。

職位毎の応募人数と希望コースのトップ5

応募者データ(R2第一期・第二期、及びR3第一期)から計算

順位	部局長以上 (応募者 33 人)	管理職・監督職 (応募者 213 人)	一般職員 (応募者 1231 人)
1	指揮統制 (40%)	指揮統制 (38%)	防災基礎 (51%)
2	総合監理 (40%)	総合監理 (34%)	災害への備え (42%)
3	対策立案 (37%)	対策立案 (33%)	警報避難 (34%)
4	防災基礎 (31%) 警報避難 (31%) 応急活動・資源管理 (31%)	人材育成 (28%)	応急活動・資源管理 (30%)
5		防災基礎 (27%)	被災者支援 (26%)

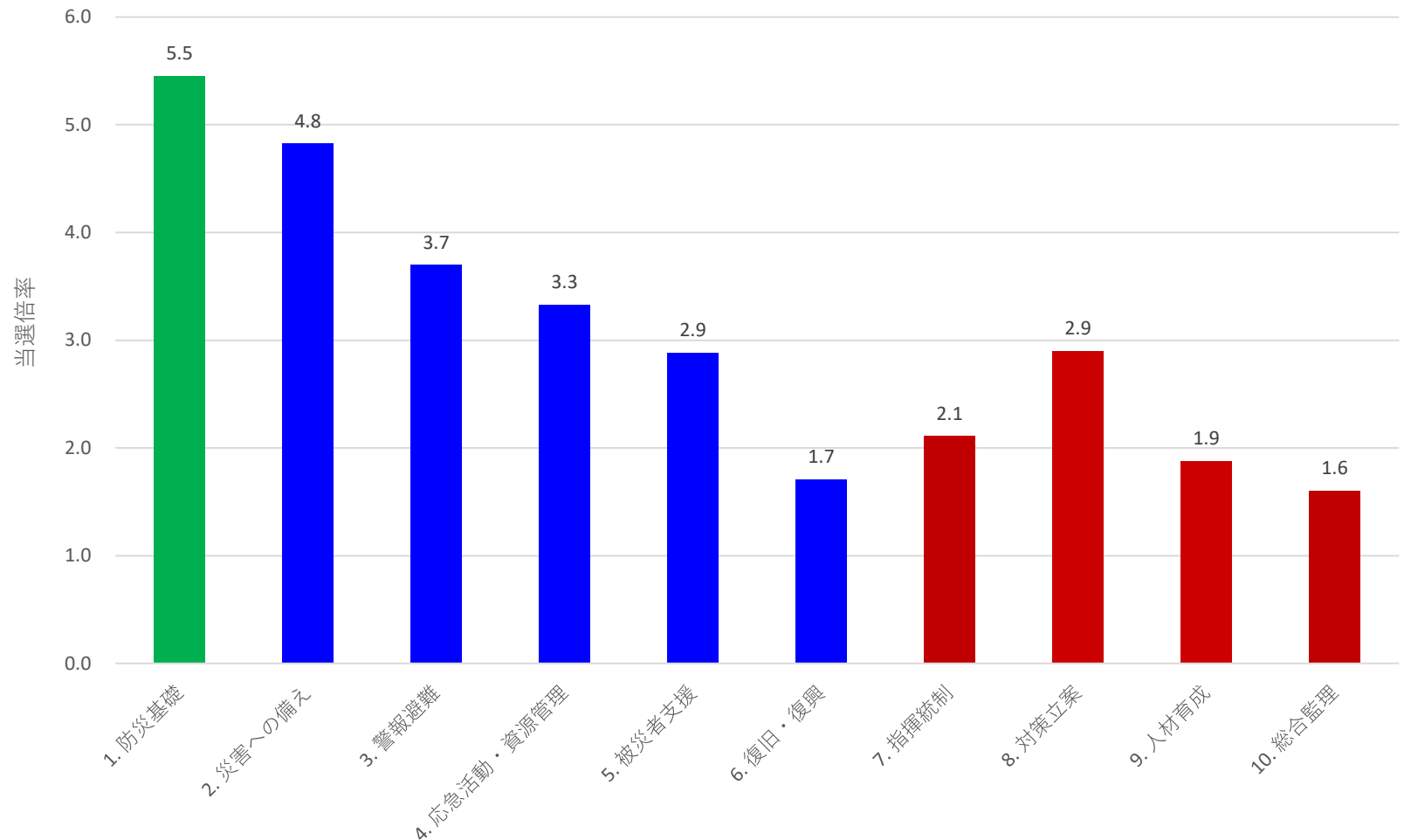
緑：防災基礎、青：災害対策、赤：組織運営

有明の丘応募者・受講者の状況④ 受講倍率

- すべてのコースで倍率1を超えている
- 特に、防災基礎と災害対策の倍率が高い傾向にある

緑：防災基礎、青：災害対策、赤：組織運営

応募者データ(R2第一期・第二期、及びR3第一期)から作図



有明の丘応募者・受講者の状況のまとめ

- 応募者の約50パーセントが2コース以上を希望しており、実際に2コース以上修了できているのは、そのうち60パーセント程度のみ(①、②)。
- 職位によって、応募者数が桁で異なり、希望するコースの傾向も異なる(③)
- すべてのコースで倍率が1倍を超え、特に防災基礎は、職位にかかわらず受講希望者が多く、倍率が高い(③、④)。

今後の「③研修の構成・内容」に関する検討の進め方

防災スペシャリスト養成研修のあるべき姿

一人でも多くの地方公共団体の職員が防災に関して学ぶべき事項を効率よく習得すること。

柱1. 学習機会の拡大

- ・定員の見直し
- ・学習の通年化
- ・オンラインの更なる活用

柱2. コースと単元の見直し・拡充

- ・受講者ニーズが高い単元や、講義が不十分な単元の盛り込み
- ・国・地方の役割、現場・後方支援の別、平時・災害時や災害対応の時間軸を考慮
- ・トレーナートレーニング等のコースを新設
- ・人的ネットワークの形成

柱3. 職位に応じたメニューの設定・提示

- ・職位毎に学ぶべきことを明確化したメニューセットの設定
- ・優先枠の設定の是非

柱4. 有明の丘と、地域研修、OJT研修の連携

- ・有明の丘の内容の全部又は一部を地域研修等により学習することの明確化